

1. 研究課題名： 動的視差バリアの分散配置による広域空中像提示

2. 個人研究者名

三河 祐梨（日本電信電話（株）NTT コミュニケーション科学基礎研究所 リサーチアソシエイト）

3. 事後評価結果

本研究では、分散配置の動的パララックスバリアを用いて、広域遠方への裸眼空中像ディスプレイを実現することを目的とした研究を行った。分散モニタ群による巨大空中像提示手法を提案し、実際に 3 次元像をデモンストレーションした。一見使い物にならないように見える乱雑なディスプレイ配列でも、要点を上手く目に飛び込ませる手法は面白く、汎用性が期待できる。これは市販のディスプレイを使用可能な技術であるため、実用化させやすいと評価できる。また、論文、招待講演、受賞と成果があがっている。

研究開始時の目標であった動的視差バリアを用いた完全裸眼ディスプレイは複数個の開発は困難であると判明し、3D 眼鏡を利用するアナグリフ映像へ変更し、さらに高速化は取りやめるなど、当初の予定したものとは異なる方向性となった。しかし、Ocular parallax など、当初と異なる展開に発展させ、眼球運動と連動する立体ディスプレイの研究などの研究成果を得た。自ら軌道修正をしながら、果敢かつ立派に研究を行う過程で新たなスキルを身に着けたことから、研究者として大きく飛躍できたと感じられた。本研究領域内での研究成果も認められ、大学院修了・学位を取得し、現研究実施機関にリサーチアソシエイトとして就職したことから、独自のアイデアに基づく研究を加速・発展させる基盤を固めることができたといえる。